主役登場

持続可能な ICT社会の構築を目指して

折口 壮志
NTT情報流通基盤総合研究所
研究主任

「ICTと環境」というテーマに取り組んで４年が経ちました．このテーマは，ある１つのICTという技術に特化した研究開発でなく，地球環境保全，特に地球温暖化防止という切り口から多種多様なICTサービスを俯瞰し，どのようなICT社会を構築することがより環境配慮型になるか，また持続可能なICT社会になるかを検討することです．ICTには社会・経済・環境に与える影響に，良い側面（コミュニケーションの活性化，経営効率の向上，環境負荷低減効果など）と，悪い側面（ネットワーク犯罪の増加，デジタルデバイド，ｅ-廃棄物の増大など）があります．情報流通業のリーディングカンパニーであるNTTグループは，この良い面を最大化し，悪い面を最小化したICT社会を構築することを使命として日々取り組んでいます．

私は以前，環境保全材料の研究開発に携わっていました．その研究開発成果をショールームに展示していたとき，それをご覧いただいた消費者アドバイザの方が，新聞に投稿してくれました．そのころはマイライン獲得のために各社が厳しい競争をしていた時期で，記事には「通信料金の面で，マイラインを選ぶ決め手がないのであれば，その企業がどれだけ環境や社会の今後を見すえて，役に立つ研究や活動をしているか．その活動を応援するつもりで物を買ったり，契約をする．それが“賢い消費者”の基準の一つといえる時代になったようです．」（2001年３月６日山形新聞）と書かれていました．この記事が今でも，現在の業務であるNTTグループの環境経営を推進する研究開発の私の原動力であります．

私は現在，環境省 地球環境研究総合推進費の中の脱温暖化2050プロジェクトの研究メンバとして，2050年のICT社会像を模索しています．このプロジェクトの研究によると，日本を持続可能な社会にするためには，2050年までに1990年比で60～80%の二酸化炭素を社会全体から削減する必要があります．そのためにも環境配慮型ICT社会の構築は急務であると考えます．

２年程前，研修と環境問題の調査のために半年近く中国に滞在していました．経済の急速な発展とともにICTを急速に導入している中国の“喧騒と転換”の中で実際に生活して，環境を意識したライフスタイルをいかに定着させ，環境に配慮したICT社会を構築するためには日本だけでなく，グローバルに考える必要性を実感しました．

これらの経験をふまえて， ICTと環境というテーマの取り組みは，NTTグループの企業価値を高めるだけでなく，よりよい日本社会を構築するための礎石になると信じています．NTTグループの環境経営を推進し，社会と対話することにより持続可能なICT社会を構築し，それを世界へ発信することにより，日本社会，ひいては世界に貢献できると考えています．

つい先日，第一子が誕生しました．この子のため，そして次世代を担う子どもたちのために我々が何を遺し，何を伝えられるか!? そんなことを考えつつ，研究開発に取り組んでいます．